

文学部

Department of Japanese History

日本史学科



OB'S MESSAGE

花園大学での日本史研究が今の仕事の原点です

植彌加藤造園株式会社 サービス部門 / 名勝「無鄰菴」国指定史跡「岩倉具視幽棲旧宅」学芸員
重岡 伸泰さん

花園大学 文学部 日本史学科 1995年3月卒業 / 大学院文学研究科 修士課程 日本史学専攻 1997年3月修了 / 大阪府立 清友高等学校出身

日本史学科と大学院修士課程の計6年間、明治維新を研究し続けました。その後は在学中に培った古文書を読み解く技術を活かして約10年、各地の自治体史を編纂する仕事をしました。現職に就いたのは2016年の3月。当社(植彌加藤造園)が、この「無鄰菴」の管理育成と一般公開に係る運営全般を担う京都市指定管理者になるのにあわせ、入社しました。主な業務は来場者の案内や予約を受けての解説、レファレンス対応や企画広報などです。なお近代の名園として、国の名勝に指定されている当菴は明治・大正の元老、山縣有朋が自ら指示して造営させた別荘であり、園内の洋館は伊藤博文や桂太郎、小村寿太郎と共に日露開戦を協議した「無鄰菴会議」の場として知られています。また、当社は「岩倉具視幽棲旧宅」の指定管理者でもあり、同宅でも学芸員としての仕事をしています。

思えば山縣有朋と岩倉具視、維新を牽引した二人の息吹を感じる史跡を職場に、学生時代の研究に基づく仕事をしているのですから、これほど贅沢な毎日はないと感じています。その起点は日本史が好きになった小学生の頃に遡りますが、古代から近現代まで、あらゆる時代の研究者が花園大学におられ、幅広く学びながら、研究対象を明治維新に絞り込んでいった結果の「今」なんだと感じています。

「日本史で生計を立てたいなら古文書の読解力を身につけなさい。」この恩師の言葉への感謝も尽きません。民俗学にもふれ、視野と見聞を広め続けた花園大学での日々。これからも学生時代のように学び、作庭や植物に関する知識も増していこうと思っています。日本史が大好きな皆さんも私と同様、自身の興味・関心に従って花園大学で研究に打ち込めば、道は開けていくと思います。

ONE POINT ADVICE

すべての学生が学べる
「京都学」

「千年の都」としての歴史と文化を有する「京都」について、歴史・文学・宗教・文化などさまざまな側面から総合的に学ぶ「京都学」。これは平安京の跡地内、洛中にある花園大学ならではの科目です。また、日本史学科に限らず、すべての学生が受講できるようになっており、科目等履修生として学びに来られる地域の方々との世代をこえた交流の場にもなっています。